

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム しょうせきあいあい

(ユニット名) しょうちゃんユニット

記入者(管理者)

氏名 村田 佳乃

評価完了日

平成 20 年 1 月 30 日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<p>(自己評価)</p> <p>家庭的で季節感・温かみのある生活を提供し、常に医療と連携した終身介護を行う。</p> <p>(外部評価)</p> <p>医師である運営者が、「診療所でかかわった方達が、住み慣れた町で、最期を迎えるまで暮らし続けられるように」との考えのもと、事業所を開設し、地域に開かれた事業所を目指して取り組まれている。</p>		利用者・家族のニーズにあった介護・医療を目指し、さらに質向上を目指す。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>管理者がグループホームの意義と役割を認識し、介護スタッフと共に目標を掲げ取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所の理念に基づいて、各ユニット毎に介護理念や行動指針を掲げ、実践できるよう取り組まれている。</p>		理念について管理者・職員等で話し合い理解を深め、さらなる理念実践に努めたい。
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>家族会や運営推進会議での説明他、家族や知人等が面会にホームを訪ねられたさいには必要に応じて説明し、理解を図っている。</p>		地域行事への参加機会を増やし、地域の方々への理解を図る。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 職員は隣近所の方とお会いした際には挨拶をし、気軽に立ち寄っていただけるようお話することもある。また、運営推進会議等への参加もお願いし、声掛けを行っている。		行事等、様々な機会を設け、隣近所の方とよりいっそうおつきあいできるように努める。
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 秋の地方祭では、神輿に立ち寄っていただいている。また、市民大清掃時には職員も参加し、地域行事に参加している。		今後はさらに地域行事への参加機会を増やし、よりいっそう地域に根ざした施設にしたい。
			(外部評価) 地区の回覧板にて、事業所内でのセミナー開催をお知らせし、腰痛体操や家庭介護、口腔ケア、救命救急等についてお話しをされた。利用者は、地域のボランティアの方と折り紙や朗読、お菓子作りを楽しまれている。		管理者は、今後も地域に様々な情報を発信していきたいと考えておられる。又、事業所では、近隣の幼稚園や小学校との交流も検討されていた。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や家族会・食事会・地域での講演会等を通じて、医療介護のトピックスや介護予防・口腔ケアの講話を行っている。		今後とも地域住民との交流会を通じて、医療・介護に関する情報提供を行っていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 指摘を受けた項目を文書にて職員に報告し、改善に努めている。		外部評価項目にて指摘された事項を職員間で共有し、報告・連絡・相談の徹底に努める。
			(外部評価) 職員が項目を分担して自己評価に取り組み、申し送りや話し合いの大切さに改めて気付かれた。前回の評価結果を受けて、改善計画書を作成し取り組まれており、利用者が買い物に出かける際に支払いを任せる等、お金に触れる機会を増やされた。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 地域の方や家族に参加してもらい、運営者との意見交換等を実施しており、多数の意見を真摯に受け止めサービス向上へ活かしている。		より多くの方に参加いただけるよう運営推進会議開催の周知に努めている。
			(外部評価) 会議時、事業所の取り組みや、メタボリックシンドローム等、健康に関するテーマについてもお話されている。出席者の方から「事業所のことを地域に対してもっとアピールしてはどうか」等の意見や今後の議題等も提示していただいている。婦人会の方の紹介により、ボランティアの方に来ていただけるようになった。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市介護保険課・高齢福祉課・保健所等所轄官庁に頻回に立ち入っていただき、保健所の方からは、食材の安全性や衛生面について優れていると評価をいただいた。		今後ともサービスの質を維持・発展できるよう、職員管理には特に力を入れて取り組みたい。
			(外部評価) 市の担当者から、「グループホームにおける介護と医療の共存について」等、助言をいただいている。市や市社協の職員の研修を受け入れている。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 適応者には身体障害者手帳や生活保護の申請を積極的に行い、医療・福祉用具等に関する助成制度を活用している。		社会福祉制度に関する改正等の情報収集を積極的に行い、利用者がスムーズに活用できるよう支援を続ける。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はもちろん、言葉の暴力にも気を払い、管理者・職員間で注意し合い防止に努めている。		職員の利用者に対する接遇・応対に関して、虐待の芽を摘むべく、報告・連絡・相談を行い、監視・監督を強化していく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には担当職員が重要事項等を順追って説明し、後にトラブル等が発生しないよう、契約内容の理解を図っている。		必要な場合には、2名以上の職員が対応し、利用者や家族の質問を受けたり説明を行ったりしている。
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの意見・苦情を職員・管理者が聞き、それらを運営者・管理者等で検討し可能な限り運営に反映させている。		より多くの利用者や家族に意見を求めていき、誰もが快適に生活できる環境づくりに努めたい。
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 家族が面会に来られた時や電話等にて、利用者の近況報告等を行っている。また、家族会・運営推進会議報告書にて、定期的に施設全体の状況報告を行っている。職員の異動に関しては、質問があれば対応している。		今後は施設内での出来事や行事予定等を定期的にお知らせし、家族の方も一緒に利用者の支援ができるよう努めたい。
			(外部評価) ご家族は頻繁に来訪され、その際にご本人の暮らしぶりや健康状態等について伝えておられる。職員の写真と名前を共用空間に掲示し、職員の離退職については、家族会で説明された。		管理者は、中断していたホーム便りを復活して、事業所の取り組みや行事風景、職員の異動等を掲載し、ご家族にお知らせしたいと考えておられた。
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会等の場で意見をいただいたり、設置している意見箱に意見を投函していただいたり、職員や管理者が家族から直接意見や苦情等を聞いたりし、それらを運営者・管理者等で協議し運営に反映させている。		今後も家族が心安く意見できる職員や機会を増やし、家族にもいっそう安心していただける生活の場を提供できるようにしたい。
			(外部評価) 2ヶ月に1度、家族会を開き、意見や要望を出していただいている。ご家族からは、「外出の機会を増やしてほしい」等のご意見があった。クリスマス会やお花見会等、行事時等にご家族同士でお話をされるような機会も作られている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 意見箱を設置し、職員の意見等に対して運営者・管理者が協議・回答し、可能な範囲内で運営に反映させた。		今後は職員が、気軽に運営者・管理者に意見したり提案したりできる機会を設け、よりよい職場環境・生活環境が作れるよう、運営者・管理者と職員の信頼関係をより強く結べるよう努めたい。
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) その時々 of 行事等に合わせて勤務を変更し、利用者や家族の希望に添えるように対応している。		より多く利用者に関わりがもてるよう、今後も対応していきたい。
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の離職により職員異動があり、少なからず利用者への影響も出ていると思われるが、運営者・管理者等で協議し離職者への対応を検討している。		離職者や職員の意見等を受け止め、今後の運営に活かし、顔馴染みの職員が長期に渡りケアを行い、利用者への影響を最小限に抑えたい。
			(外部評価) 職員の離職に際しては、引き継ぎを確実に行うよう努めておられる。		管理者は、さらに、職員が一丸となってケアに取り組めるような環境を整えていきたいと考えておられた。
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 行政や民間団体が主催する諸種の研修会に必要なに応じて、勤務時間内に出席させスキルアップに努めている。		職員の能力や適性も勘案し、必要な職員に必要な講習の受講を勧めていく。
			(外部評価) 外部研修で、利用者のプライバシーの尊重や認知症の理解等について知識を深め、ユニット会議等で周知されている。又、日々のケアの中で、ミニカンファレンスを持ち、互いに助言したり気づきを話し合っておられる。		さらに、すべての職員が外部研修を受講できるような仕組みから、さらなる事業所の質の向上を目指していかれることが期待される。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 運営推進会議や家族会等に地域包括支援センターや近隣グループホームの職員にも出席していただき、情報交換に努めている。また、必要に応じて利用者の紹介等を行い、連携に努めている。		地域住民のために手を携えて事業運営にあたるよう努力していく。
			(外部評価) 相互評価事業に参加し、他事業所との相違点等に気づかれた。地域の事業所の運営推進会議に、職員が出席されたこともある。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	施設長が自ら相談窓口となり、職員の不満や要望を聞き、勤務時間・勤務日や職員間の人間関係の調整を行っている。		施設長だけではなく、その側近であるユニットリーダー等も交えて、複数人間がその調整に関わっていくよう努める。また、多面観察制を取り入れ、問題点の把握に努める。
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 半期に一度、目標管理シートの記入を職員・上司の双方が行い、業績をボーナスや昇給・昇進に反映できるよう努めている。		人事管理制度を充実させ、不平等を排除し、業績に応じた公平・公正な評価に努める。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 施設見学希望があれば積極的に受け入れ、実際に施設での生活を見ていただき、質問等があれば回答している。利用者が納得し安心して生活できるよう、会話する時間を多く持つよう努めている。		継続し、不安なことや困っていることに対し個々のニーズにできる限り対応できるよう努める。また、コミュニケーションを重ねることでわかっていく情報等を、支援に役立てていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		<p>初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>見学時や相談時に十分な時間をとり、不安の軽減に努めているが、実際に利用が始まってから不安なことや要望があれば、その都度、できる限り話をする機会を持つようにしている。</p>		<p>できる限りの対応はしているが、季節行事等に参加してもらいもう少しゆっくりとお話を聞いたり情報交換したりできる機会を作りたい。</p>
25		<p>初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>必要な支援を見極め、どうすれば本人が望む生活が送れるかを検討し対応している。</p>		<p>初期に見極めた支援内容や、本人の希望は、時間の経過と共に変化していくため、その時々で柔軟に対応できるよう努めたい。</p>
26	12	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>生活環境の変化に不安になりがちな利用者が、以前から入居している方の輪にスムーズに入れるよう、職員が間に立ち会話の手助けや雰囲気作りを行っている。そのため家族の方から、利用者本人の情報を聞かせていただいている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居前には、ご本人やご家族に見学に来ていただいたり、運営者が入院先を訪問し、詳しくご本人の状態をうかがう等、安心して入居できるよう配慮されている。入居間もない時には、ご家族に頻りに面会に来ていただく等、協力を得ておられる。</p>		<p>家族へ連絡を取り、家族からの助言をいただきながら、安心して心地よく生活できるように努めていく。</p>
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
27	13	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>対話を中心に一日を送っており、生活の知恵を学んだり、昔の大変だった頃の苦労話に共感したりと、一緒に生活を送る家族のように過ごしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は、利用者を人生の先輩として敬い、これまで培ってこられたことを教えていただくことも多い。利用者の方が職員をさりげなく気づかておられる様子がうかがえた。</p>		<p>対話をすることで、その人の人生の喜びや悲しみを共感しながら、信頼関係を深く築けるようにしていく。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族にこまめに連絡を取り本人の要望を伝え、居心地よく安心して生活していけるよう、家族と共に本人を支えている。		今後も家族と共に支援できる関係構築に努めたい。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人と家族双方の思いに配慮しながら、必要に応じて間に入り助言を行い、より良い関係構築に努めている。		今後も本人・家族双方の思いを配慮し、良好な関係作りを図りたい。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望により、友人知人と連絡が取れるよう手紙等を準備し支援している。また本人の趣味の絵画の先生を招いている。		気兼ねなく面会に来ることができ、心地よく過ごせる雰囲気作りに努めたい。また外出も本人の馴染みの場所へ出かけられるような機会を設けたい。
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりを日々の生活の中で把握して、レクリエーションや談話の中で利用者間のパイプ役となり、円滑な関係作りを支援している。		利用者同士が関わりを持って生活し、支えあっていけるよう必要に応じて間に入り関係作りの支援を今後も継続したい。
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用者には母体診療所の患者やその家族、近隣地域住民も多く、死亡退去等で利用契約が終了しても、引き続きその家族が入居されたり診療所と関わりを持っていただいたり、良好な関係を築いている。		今後とも、当施設に関わった家族や地域住民が、機会があればまた利用を希望してもらえよう、サービスの維持向上に努めていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の話を傾聴し、また、笑顔が見られるよう努めている。 (外部評価) センター方式のアセスメントシートを活用し、ご本人の思いや生活歴等の把握に努めておられる。		本人の訴えていることの意味やその背景を考え、声掛けやケアに取り組みたい。 センター方式のアセスメントシートを活用し、ご本人の思いや生活歴等の把握に努めておられる。
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族からの情報や、以前に利用されていた施設等からの情報をもとに、過去から現在までの経過を把握しており、本人との日々のコミュニケーションからも生活歴等をくみ取り支援に活かしている。		本人とはもちろん、家族ともコミュニケーションを図り、より多くの情報を得てこれまでの暮らしを把握していきたい。
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の対話やケアを通じて本人から情報を得たり、職員間で情報交換を行い、全体的に利用者一人ひとりを把握している。		一人ひとりへの対応が画一的にならないよう注意し取り組んでいきたい。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の状態や生活状況を考慮し、職員間で話し合い計画作成している。 (外部評価) 介護計画と必要に応じて看護計画を作成しておられる。		日頃より本人や家族の意向の把握に努め、より利用者本位の計画が作成できるよう取り組みたい。 今後さらに、利用者個々のよりよい暮らしを支援していくためにも、ご本人の求めていることやご本人の生活歴等を取り入れ、介護計画を作成されるような取り組みも期待される。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			病状の変化等、利用者の状態に変化があった際は、その都度、本人・家族・職員等で検討し、経過に合わせてケアプランを作成している。		日々のケアや対話の中から利用者の状態変化の把握に努め、その都度状態に合わせた計画を作成したい。
			(外部評価)		
			3ヶ月毎に介護計画の見直しをされている。体調等、状態に変化が生じた場合には、その都度、計画の見直しを行っておられる。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			誰が見ても分かるよう、日々の記録を利用者ごとに行い、カンファレンス等を通して情報を共有し、ケアに活かしている。		一人ひとりの状態の些細な変化にも職員が情報共有し、常に最善のケアが行えるようさらに取り組みでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			グループホームは主に軽度の利用者のユニットと、主に重度の利用者のユニットに別れており、利用者の状況によりユニット間の移動にも柔軟に対応しており、ターミナルケアまで行っている。また本人や家族の意向等をくみ、介護支援専門員と相談のうえ併設の小規模多機能施設への利用変更も柔軟に対応している。		利用者や家族の状況や意向等を常に把握できるよう努め、利用者や家族の希望に叶った支援を行っていきよう、事業所全体で取り組んでいきたい。
			(外部評価)		
			病院受診時や美容院に出かける際には、職員が同行されている。ユニット同士で行き来して、レクレーション等を楽しまれている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		(自己評価) 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議・家族会には民生委員にも出席してもらっている。また、年2回の消防訓練には地域消防団員や消防署も交えて住民参加型の訓練を行っている。学生の職場体験受け入れも行き、入居者との交流を図っている。		今後とも地域交流を積極的に取り入れ、閉じこもりがちな入居者の心身の活性化を図りたい。
41		(自己評価) 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	当施設は終身介護を前提としており、利用者のニーズとして、他施設の利用希望はほとんどない。医療的に重症化した場合は適宜救急病院等と連携を取りながら、最善のサービス提供に努めている。		利用者のニーズに応じて、柔軟に対応していく。
42		(自己評価) 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議や家族会には地域包括支援センターの職員にも出席してもらい、運営等に関し、助言をいただいている。また、地域包括主催の連絡会にも必要に応じて出席している。		必要に応じて、地域包括支援センターに知恵を拝借し、利用者のケア向上に努めていきたい。
43	18	(自己評価) かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関である北吉田診療所院長が毎日往診を行い、24時間体制で連絡をとり、濃密な医療を行っている。また、急変時にも相応の対応を行っている。		医療・介護を一体的に提供することにより、利用者・家族が安心して命を預けられるよう支援していく。
44		(自己評価) 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	北吉田診療所院長が、病院での長年の臨床経験をもとに、認知症の治療・随伴症状への対応の指示を行っている。		提携医による支援を中心とし、さらに対応困難な場合には、精神・神経科の専門医にも受診相談し、利用者が最適なケアを受けられるように支援していく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を24時間体制で両ユニットに配置し、看護職員間で利用者の情報を共有し、日々の変化において即対応できる体制を整えている。		今後も診療所の医師と連携し、利用者の状況に応じて迅速的確な医療支援ができる体制をとり、利用者や家族に安心を提供したい。
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 北吉田診療所院長や当施設看護職員が常に病院と情報交換を行い、早期退院しても十分継続フォローが可能な体制となっている。		利用者や家族の希望も勘案しながら、病院への入院は必要最小限に止め、施設内にて在宅診療での対応を強化していく。
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 終末期における希望を本人や家族と話し合ったり、かかりつけ医と相談したりし、全員が方針を共有している。実際、開設以来、8人の看取りを実施している。 (外部評価) 利用者の看取りをされた際には、ご家族の心の平安を第一に考え、言葉かけ等にも細心の注意を払い、ご本人とご家族が過ごされる時間を大切にされた支援を心がけ、取り組まれた。		かかりつけ医からの指示や、本人・家族の意向をもとに、様々な状況を想定し職員間で話し合っていくたい。また、住み慣れた家で終末を迎える視点より、今後とも積極的に見取りを行っていきたい。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) かかりつけ医である院長と常に連携して、常駐の看護師が点滴等の可能な処置を行っている。また、院長が毎日往診に来ており、日々の変化にも即対応できる体制を整えている。看取りも開設以来8名行っている。		今後も医師・看護職員・介護職員が綿密に情報を共有し、医療と連携した介護支援をしていきたい。さらに迅速な対応が取れるよう、チームでより綿密な話し合いができるように努めたい。また、住み慣れた家で終末を迎える視点より、今後とも積極的に見取りを行っていききたい。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 日々の生活の中で注意しなければならない点や、実際のケアの状況などの情報交換が行えた。		正確な情報交換が行えるよう、日々の情報整理に努めたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価)		
			常に、人生の先輩であるという目で利用者と接している。また、必要な場合を除き個人情報に関わる資料等は外部へ持ち出さないようにし、情報が外部へ漏れないよう注意している。		今後も利用者に対して尊敬の念で接したい。また、プライバシーには十分配慮した声掛けやコミュニケーションをとるよう、職員間でも注意しあっていきたい。
			(外部評価)		
			食事時や排泄介助の場面で、職員は、利用者一人ひとりに対して礼儀をわきまえて対応しておられる様子が見ええた。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価)		
			利用者の状況によっては、文字板を利用し、本人に分かりやすいよう説明している。		本人の意向を表しやすいようなコミュニケーションをとるように努め、本人の気持ちを考えることを大切にしたい。
			(外部評価)		
52	21	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)		
			利用者一人ひとりとコミュニケーションをとり、その人らしい生活ができている。		一人ひとりのペースに合った生活ができるよう、本人の希望や思いを常に確認しながら生活を支援していきたい。
			(外部評価)		
			ご本人のその日の体調や希望で、居室で食事を摂っている方もおられた。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) その人に似合う服をアドバイスしたり、本人の希望に合わせて、理容・美容を行ったりしている。		今後もその人らしい身だしなみができるよう支援していく。
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 年中行事等に合わせて料理を提供したり、旬のものを素材にしたりして、献立を工夫している。また、利用者の状態に応じて、おやつや準備や食事の片付けを一緒にしている。		利用者から調理方法や味付けを教えていただいたり、片づけを手伝っていただいたりしながら、食事を利用者・職員共に楽しくいただける時間にするよう努めたい。
			(外部評価) 食事は、利用者が食べやすいように調理され、彩りも考えて盛り付けされている。職員は、利用者とは話しながらさりげなく支援されていた。食後、お盆拭きをされている利用者がうかがえた。		
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) おやつ時には、メニューに合わせてコーヒーや紅茶等、好みに合わせて本人に選んでいただいている。また、梅干や海苔等、一人ひとりの好みのものを食事時に出し、本人や家族の希望に沿えるよう対応している。		好みのものを選択できるよう対応していきたい。また、一人ひとりの希望や好きな食べ物等を日々のコミュニケーションからくみとり、より本人の嗜好が支援できるよう努めたい。
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) ご自分でトイレまで行かれる利用者には職員が見守りを行い、食前・食後排泄の有無の確認をし気持ちよく暮らしていけるよう、一人ひとりに合ったトイレ介助をしている。		今後も食前・食後等の声掛けを行い、ウォシュレットを使用するなど、より清潔で気持ちよく排泄していただけるよう支援していく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価)		
			気分や体調を考慮し、利用者にすすんで入浴していただけるよう配慮している。		その人好みの湯加減になるように配慮したり、入浴中も会話をし気持ちよく時間を過ごしていただけるよう努めたい。
			(外部評価)		
			入浴時間や湯加減等、利用者個々の希望に合わせて、支援されている。お一人で入浴される方には、さりげなく「お背中を流しましょうか」等と声かけされている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
			一人ひとりの気分や体調を把握できるようコミュニケーションを大切に、気軽に意思表示していただけるよう努めている。		リビングに出て職員も含め、皆での楽しい時間を共有すると共に、状況に応じて居室でゆっくり過ごされる時間も大切に支援していきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価)		
			食事やおやつ時の会話の中に趣味や特技などの話題が出てくるが多く、それらを把握してレクリエーションの中に活かしている。		進んで自己主張ができるよう積極的に声掛けをすると共に、暮らしの中で参加して楽しんでいただける事アイデアを職員で話し合っていきたい。
			(外部評価)		
			風船バレーや折り紙で体や手先を動かされたり、又、音楽療法や回想法等を探り入れ、利用者は、職員と一緒に懐かしい歌を歌ったり、昔の体験談や思い出話をされている。		管理者は、今後もさらに、利用者一人ひとりの生活歴や趣味等を活かし、楽しみごとを増やしていきたいと考えておられた。
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)		
			普段はお小遣いとして事務所に預り保管しているが、嗜好品など本人の希望があればすぐに対応している。衣類などは「家族に相談を」と声掛けしている。		事務所で責任もって保管し、今後も希望があればいつでも自由にお金を使えるよう支援していきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			希望時には、家族または職員と一緒に外へお出かけしていただいている。		一人ひとりの希望を把握し計画を立てる等、さらに外出支援に努めたい。
			(外部評価)		
			利用者の体調等にも配慮し、散歩や買い物に出かける機会を作っておられる。		事業所では、今後さらに、ご家族の協力もいただきながら、利用者の希望にそった外出支援に積極的に取り組みたいと考えておられた。
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			本人・家族の希望により、家族と一緒に外出していただいている。		一人ひとりの希望等を日常のコミュニケーションから把握し、その情報を家族に伝えるなど、積極的に外出支援に努めたい。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			電話の希望には速やかに対応している。希望があれば年賀状などを職員が読んで、差出人の方の氏名や住所等も伝えている。		人間関係や生活状況などの把握に努め、電話の希望に対応する際は相手方にご迷惑かからぬよう配慮していきたい。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			家族や馴染みの方が訪問された際には居室に案内し、本人・来客共に心地よく過ごしていただけるよう配慮している。		面会に来られた方を職員も一緒になって気持ちよくお迎えできるよう、引き続き支援していく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束はしないを基本とするため、こまめに危険のチェックをし、訪室の回数を増やしている。		体動の多い方や不穏のある方への注意は怠らないよう、今後も努めたい。
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵がフリーなため、居室への出入りの際ははっきりとした声で声掛けをしている。		施錠されていなくても居室に入る際のマナーは大切にすることを今後も実践していきたい
			(外部評価) 日中、鍵をかけないケアを実践されている。		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 居室にはロックして声掛けしてから入室するようプライバシーに配慮し、夜間も巡回し利用者の様子確認できている。また、職員間での連絡を密にすることで、状態の把握・危険防止に全体的に取り組んでいる。		小さな出来事や状態の変化も細かく記録し伝えることで職員間で情報共有できており、今後も継続したい。
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人ひとりの状態に応じて注意の必要な物品は預かったり家族に持ち帰っていただいております、必要時に本人に持ってもらい危険防止している。		今後も利用者の状態に応じて注意の必要な物品には気を払い、危険防止に努めたい。
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 日々、一人ひとりの状態で気になることは職員間で報告し合い、事故や怪我の防止につなげている。		事故を未然に防ぐための知識を学び、全ての職員に徹底するよう努めたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変時に対応可能な看護職員が常駐しており、介護職員も応急手当や初期対応の訓練を行っている。		今後も看護職員・介護職員共に急変時への対応訓練を継続し、緊急時に備えたい。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に行っている防火訓練では、消防署員に講習してもらい、職員はじめ家族・地域の方々にも参加していただき、防火防災に関する知識を学んでいる。また、利用者の避難経路や避難方法等についても検討している。 (外部評価) 防火避難訓練を地域の行事の一環として組み入れていただいた。地域の協力を得ながら訓練を実施されている。前回の防火訓練では、落ち着いて利用者を避難誘導することが予想以上に困難であることを実感し、今後の反省点とされた。		全職員が災害時の対応を学んでいないため、今後も定期的に防火訓練等を実施し、職員の防災意識を高め、引き続き地域の方々へも協力を得られるよう働きかけていきたい。 災害時には、事業所を避難場所、救急救済の場として地域に提供したいと考えておられる。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 2ヶ月に1度家族会を開き、運営者と家族の座談会を実施している。		家族との座談会を大切に、参加する現場職員の数を増やすなど、対応策をすぐに活かせるよう取り組んでいきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 一人ひとりの観察を怠らず、表情が乏しかったり、手を握ったときの体温の変化があった際にはバイタル測定や看護師への報告を徹底し、申し送りノートへ記入するなど、情報共有も徹底している。		引き続き徹底していきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護職員は理解した上で、一人ひとりの服薬支援ができています。看護職員に関しては、目的等は理解できているが、副作用までは理解できていない。		看護師が管理しているため、看護師は安心して服薬支援ができていますが、今後は介護職員も理解把握できるよう勉強会を開くなどしたい。
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘に対して職員は理解できており、予防に対しての働きかけもできている。		今後も食事には野菜を多く取り入れ、水分補給も促していきたい。
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、声掛けと誘導により必ず口腔内ケアをしていただいている。また、寝たきりの利用者には、1日3回の口腔ケアを行っている。		今後も一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしていきたい。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・栄養バランスを考えた食事が提供できている。1日の水分量を一人ひとりチェックし、それぞれの状態に応じた支援ができています。		今後も水分量や食事量のチェックを徹底し、職員間で情報共有し、一人ひとりに合った支援をしていきたい。
			(外部評価) 毎食、汁物を付け、食材を豊富に使用する等、薄味で、栄養のバランスも考慮した食事作りを心がけておられる。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 定期的に利用者・職員とも予防接種を行っている。また、排泄物の処理にも注意し、手袋・拭きタオルは使い捨てのものを使用し、消毒も徹底している。		事業所内の衛生にも気を配り、掃除・換気・消毒を行い、感染症予防に引き続き努めたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>台所用品は毎日洗浄・消毒しており、食材は毎日買出しを行い安全管理に努めている。調理時にも職員がチェックしている。</p>		<p>食材は季節によって保存期間が変わるため、保存方法や調理方法に引き続き配慮していきたい。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>玄関周りには草花を置いたり、情報掲示板を設置するなどし、親しみをもっていただけるよう工夫している。</p>		<p>今後は利用者と共に草花を育て、職員と利用者が一緒になって親しみのあるホームにしていきたい。</p>
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>不快な音が出ないように、廊下や床にはカーペットが敷かれている。また、年中行事や季節に合わせて飾りつけなどをして、心地よく過ごせるよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間のテーブルの上には、季節の花が生けられていた。共用空間内は、医療器具、用具が目につくようにも感じる。</p>		<p>今後も利用者と共に飾り付けを考えたり作ったりして、生活感を大切にしていきたい。また、年中行事等、少しでも利用者と外出し、季節感を取り入れたい。</p> <p>共用空間が、利用者一人ひとりにとって、生活を感じることのできるような環境となるよう、工夫を重ねていかれることが期待される。</p>
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>居室は個室になっており、一人で過ごされたい時には居室にてくつろいでいただいている。また、他の利用者の居室へも自由に行き来できるため、しばしば利用者同士の交流も見られる。</p>		<p>リビングの使い方や家具の配置などを工夫し、さらに一人ひとりが心地よく過ごせる空間作りを進めたい。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			居室では使い慣れた家具やテレビ等をお持ちいただき、配置も本人や家族の希望に沿ったものにし、心地よく過ごしていただけるよう努めている。		本人の希望を尊重しながら、整理整頓や掃除の支援をし、快適に暮らしていただけるよう努めたい。
			(外部評価)		
			居室には、利用者それぞれに、ベッドやタンス、テレビ等が持ち込まれている。ご本人の作品や他の利用者からプレゼントされた千羽鶴を飾っておられる方もうかがえた。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			天候等も配慮しながら、1日2回5～15分程度窓を開け換気している。		引き続き、利用者の状況や天候にも配慮しながら換気を行うよう努めたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			建物に慣れるまでは職員が付き添い、徐々に一人で行動できるよう支援している。またトイレ、浴室、廊下などには手すりを設置し、広さも十分確保されている。		一人ひとりが可能な限り自立した生活が送れるよう、安全にも十分配慮しながら支援していきたい。
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			日々の一人ひとりの状態把握に努め、気になる点については職員全体で注意し支援している。		今後も失敗防止支援に努め、混乱や失敗に面しても、穏やかに「聞く」という姿勢で臨みたい。
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			健康面への配慮をしつつ、天候なども考慮して近くを散歩することを勧めている。		声掛けを待っての行動が多いが、本人から積極的に外出を希望される方向へ向かっており、今後も継続して支援していく。

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ② 2 利用者の 2 / 3 くらい 3 利用者の 1 / 3 くらい 4 ほとんど掴んでいない	職員は利用者の訴えに耳を傾け、利用者の意向に合った暮らし方になるよう努めている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に 1 回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	食事の前には早めにリビングに集まって、職員と共に体操や歌を歌うなどしている。夕食後はゆっくりと過ごすことができている、落ち着く時となっている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の 2 / 3 くらいが 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない	日々の体調により各々過ごし方は異なっているが、食事や入浴など早めに声掛けし、ゆっくりと一人ひとりのペースで生活できている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の 2 / 3 くらいが 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない	はじめは「しんどい」等と発せられたり表情が硬かったりした利用者も、歌ったり体操したりしてきているうちに、生き生きとしてくるのを感じる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ② 2 利用者の 2 / 3 くらいが 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない	全体で戸外に出かける行事は少ないが、個別に散歩や買い物など、外出の機会を一部の利用者には働きかけている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の 2 / 3 くらいが 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない	体調に不安のあるときは訴えが明確に示されており、医師・看護職員・介護職員が連携し、速やかに処置対応ができている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の 2 / 3 くらいが 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない	リビングで過ごされているときに声掛けをし、「どうですか？」などと尋ねたら笑顔が返ってくる。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の 2 / 3 くらいと 3 家族の 1 / 3 くらいと 4 ほとんどできていない	家族が面会に訪れた際には、職員からも家族からも会話がある環境であり、コミュニケーションを重ねることによって信頼関係ができている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	入居者の家族は頻りに訪問している。グループホームに馴染みのある方や、地域の方がよく訪ねており、地域と交流できている。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	(自己評価) ①大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の方にも参加していただいて水や健康に関する講演を行い、当施設の方針などが地域にも理解されつつある。また、医療や介護のトピックスや健康講話等も行い、参加人数を増やしている。
98 職員は、生き生きと働いている	(自己評価) ②職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間で声を掛け合うなど、職場の雰囲気を明るくし仕事に励んでいる。
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者から、グループホームを利用してよかったなど満足しているお言葉がしばしば聞かれる。
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) ①ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	医療と密接に連携していることから、安心できると言われる家族が多い。当施設の認知症への取り組みを理解し応援してくださっている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

当施設は、軽症から重症まで、あらゆる段階の利用者を受け入れることができます。胃ろう・中心静脈栄養・気管切開・人工呼吸器等、医療の必要な方も積極的に対応し、常に医療と介護を一体的に提供することにより、結果として看取りまで行っております。今後とも地域住民のニーズに配慮し、その実態に即した施設運営を行っていきたいと思っております。